

タイヤ外周研磨装置「けんま君Pro」



けんま君Proの特徴

- ① タイヤの偏摩耗修正や、グリップの回復に威力を発揮します。
- ② シンプルな構造と機能で、操作が簡単です。
- ③ 省エネ・省スペース設計で、らくらく作業を可能にしました。

特許出願中

- 〈国内出願番号〉 特願/2006-020245
- 〈国際出願番号〉 PCT/JP2007/000035

タイヤ外周研磨装置 けんま君Pro仕様

形 式	NS-9	タイヤ回転モーター	0.1kw 可変速
研磨可能タイヤ直径	φ500～φ850mm	研磨ベルト圧着	エア
研磨可能タイヤ幅	300mm	電源容量	2.3kVA
研磨ベルトモーター	1.5kw可変速	エア容量	2リットル/min以下
重 量	約250kg	電 圧	3相200V
寸 法	1250W×950D×1000H(mm)		
ガソリンスタンド向けは「安全増し防爆仕様」のものをご注文ください			

① タイヤの偏摩耗修正で、正常なドライビングが実現します。 —— 特に走行音の軽減、ハンドリングの向上に力を発揮します。

- タイヤはホイールアライメントが狂っていたり、空気圧が適正でないでないと偏摩耗を起こします。すると、走行音が大きくなったり、ハンドリングが悪くなります。
- 従来、タイヤの偏摩耗に気づいて原因をとりのぞいたとしても偏摩耗修正の手段がなかったため、タイヤを交換するか、そのままがまんして履き続けるしかありませんでした。
- タイヤの山がまだ残っていれば、「けんま君Pro」で偏摩耗を修正し、走行音やハンドリングを正常な状態に近づけることができます。

偏摩耗したタイヤ



偏摩耗修正後のタイヤ



② 新品&使用中スタッドレスタイヤのグリップ力を回復します。 —— 積雪後に装着する新品スタッドレスタイヤこそ研磨が必要です！

- スタッドレスタイヤは適切な表面粗さの時に、摩擦係数が最大になります。しかし、ツルツルの冬道を走り続けることで表面粗さが小さくなり、摩擦係数が低くなります。
- 「けんま君Pro」で適切な表面粗さに研磨すると、新しいゴムが露出され、グリップ性能が向上します。
- グリップ力回復が目的の場合、研磨量は僅か0.2～0.4mm程度です。

「けんま君Pro」ディテール

- クイックロックとセンタリングコーンでタイヤを固定



- 研磨ベルト部分レバーで張りをゆるめベルト交換



- 左側面(電源口)



- 背面(エアフィルター点検口)



- 従動プーリー部



- 右側面(コントロールパネル・操作レバー・エア供給用カプラー)



- キャスターで楽々移動
アジャスター4本で固定



- タイヤ装着前の「けんま君Pro」



- ゴム粉排出トレイ

簡単操作の「けんま君Pro」作業手順

1 タイヤの装着



- タイヤを回転軸に取り付け、クイックロックで固定します。
- タイヤに傷がないか、金属片やガラスなどの異物が刺さっていないか常に確認してください。
- 適切な空気圧かどうか確認してください。



2 コントロールパネルでセッティング



- タイヤ、研磨ベルト速度を設定します。
- 研磨ベルトの圧着力をセットします。
(一度セットすると保持されます)



3 研磨スタート



- 操作レバーを所定の位置に保持し、起動スイッチONでタイヤと研磨ベルトが回転し、自動で圧着します。

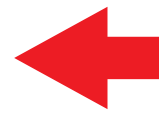


4 確認と調整研磨



- タイヤの中央部分やショルダー部分も確認しながら研磨を繰り返します。

- タイヤの表面状態を目視し、手動で操作レバーを移動しながら研磨を行います。

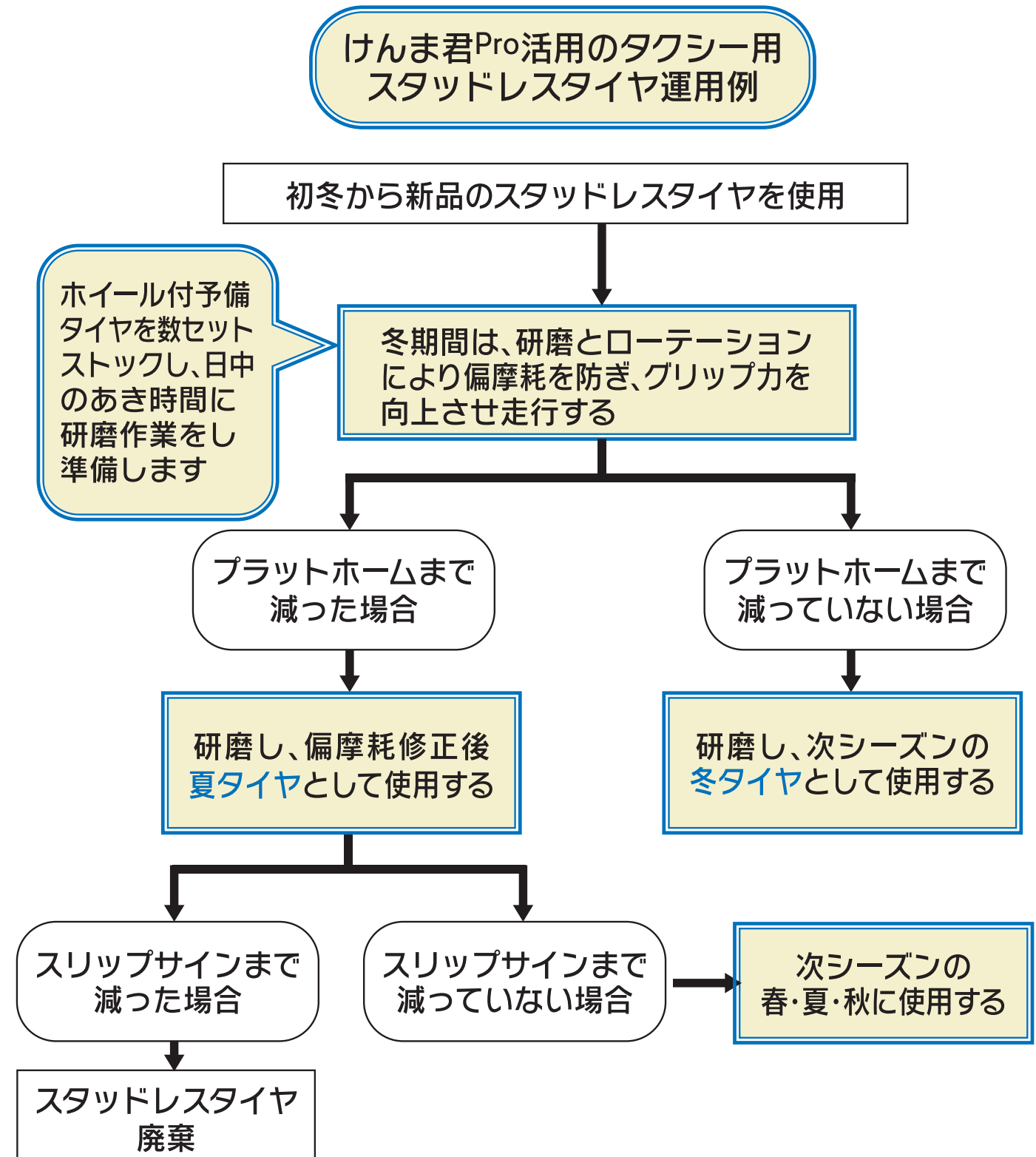
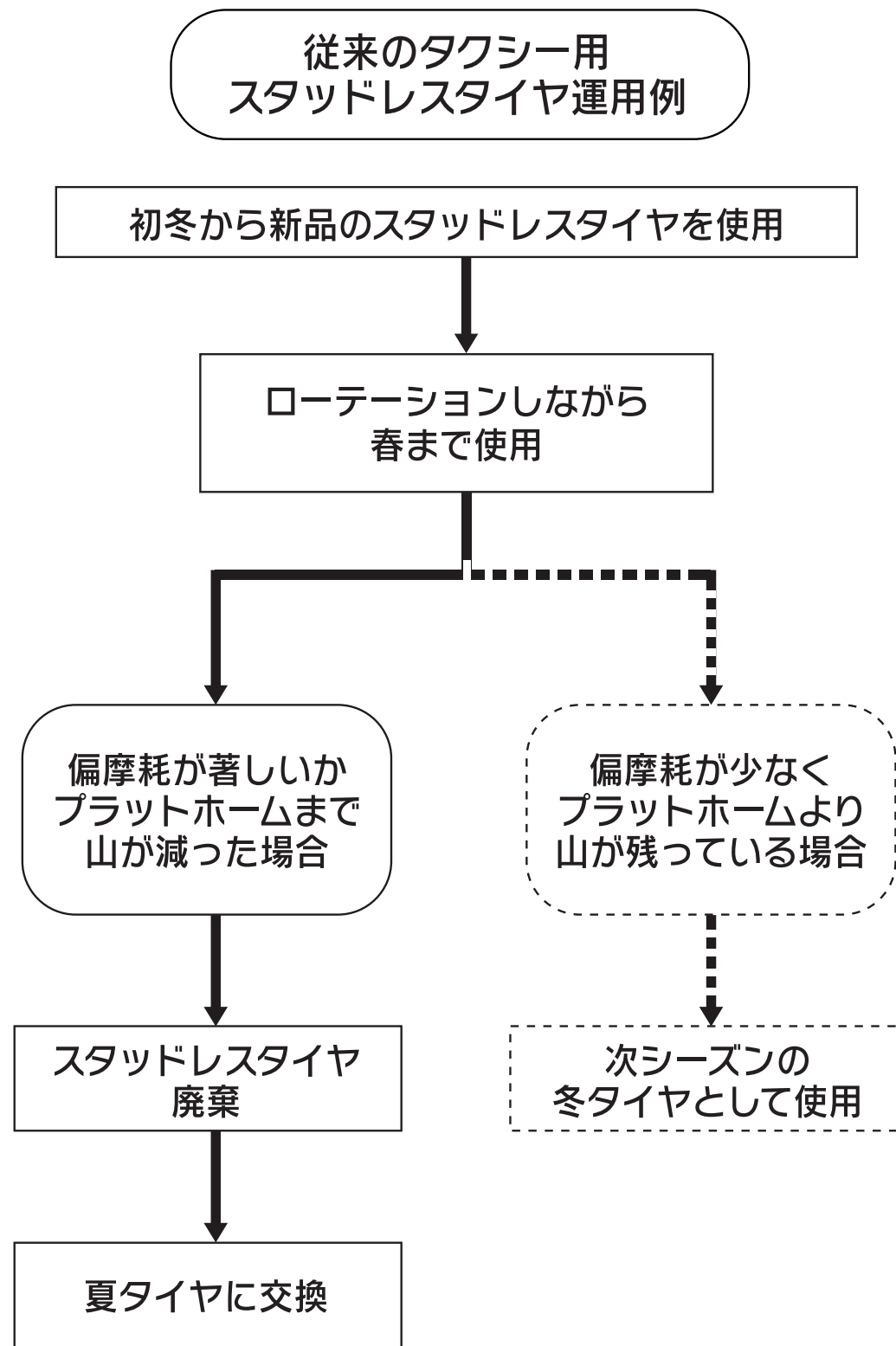


5 研磨終了



- 研磨後のゴム粉は下部トレーで排出します。

「けんま君Pro」によるタイヤ研磨の運用例 タクシー会社の例(北海道・多降雪地域でスタッドレスタイヤを使用している場合)



プラットホーム プラットホームは溝の深さが新品時の1/2(50%摩耗)になった時、接地面に現れます。プラットホームが現れると冬用タイヤとして使用できません。

スリップサイン 溝の深さが残り1.6mmになるとスリップサインが現れ、タイヤ交換が必要になります。

※スタッドレスタイヤの夏季使用については

- トレッドの山が低いほど燃費が向上し、またグリップ性能が高まります。
- タイヤの有効利用により、環境にも配慮されます。
- スタッドレスタイヤは夏タイヤに比べてウェット路面でのグリップ性能が劣るので注意が必要です。

**このタクシー会社の場合は夏タイヤの購入が不要となり
年間のタイヤの購入代金が約半分となりました**